
とある魔王の逆トリ生活（仮）

緋翠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある魔王の逆トリ生活（仮）

【Nコード】

N0044V

【作者名】

緋翠

【あらすじ】

魔王と呼ばれたルルーシュが現代に來たら……と言う逆トリップのお話。評判が良ければ連載もしようかと考え中……とりあえずプロログまでどうぞ。出来れば感想欲しいです……2011年8／31までに連載をしてほしい。という感想が8件きたら連載予定。（8件はただ作者の好きな数字なだけで特に意味はありません）

..ゼロレクイエム..

それは魔神が倒れる日

そしてそれは……発動した

正義の味方が悪逆皇帝の胸を剣で貫く

そして気がつく

白

それが今悪逆皇帝ルーシュの居るところだった

——ここは？

『生きたいか？ルーシュ』

ふと声が聞こえた

——誰だ？

『私だよ。ルルーシュお前の共犯者だ』

— C・C か？

『このまま死ぬのか？』

— それしか無いだろ。

— 俺は生きてはいけないんだ。

『確かに、この世界でお前はもう生きれない。なら異世界はどうだ？』

— 異世界？

ルルーシュはまるで信じられないと言っているような顔をした

— ハッ、冗談はよせC・C。異世界なんかあるものか

『なぜ無いと断言出来る？この世の中常に… I F …はあるんだぞ』

… I F … もしくだったら、

あの時ああしていたら

いくつかある選択肢のうち別のものを選んだ世界

——…確かに世界は常に“IF”に溢れているかも知れないが

『それでお前は生きたいのか？』

——生きれるのなら

『お前の大切な存在には二度と会えんぞ。ナナリーにも……』

——それでも……

…後悔なんかしないさ…

『……そうか、なら行くといい』

その声がきつかけになったのかルルーシュの目の前に光が広がる

——C・C……

『なんだ？』

——ありがとな

『…………早く行け。もう二度と会うことは無いだろう……好きだったよ……ルルーシュ』

——ああ、俺もだ

そうしてルルーシュはその空間から消えた

大切な存在を残して

——ありがとうC・C

学校の帰りの夕暮れ時

道路を歩く一人の少女がいた

（ああ、今日も疲れたな）

長い黒髪を風になびかせながらその道を進んでいく

（ハア、また今日も言われたな。別に嫌じゃ無いんだけど……）

どうやら彼女にはなにか悩みがあるようだ。

しばらくそのまま歩いていると彼女の後ろから人影が現れる

「C・C・一緒に帰ろ!!」

「神那……その名前で呼ばないで」

「ええ、良いじゃん別に、だって泉無ってホントにコードギアスに出てくるC・C。そっくりなんだから」

他愛もない会話を続けていく二人の少女

C・C・と呼ばれた少女の名前は如月 泉無

そしてもう片方の少女は榊原 神那

この物語は如月 泉無

彼女が家に帰ってから始まる

「じゃあね泉無。また月曜日」

「うん、じゃあね。」

神那と彼女の家の前で別れた少女はそのまま自分の家に向かって歩き出す。

(コードギアス……………か)

（確か昨日が最終回だったな……ルルーシュには幸せになって欲しかったのに）

実はこの少女

コードギアスの大ファンだったりする

（一回で良いからルルーシュに会えないかな？）

なかなか痛い事を考える娘だ

（もし会えたらプリン的一個か二個食べさせてあげるのに……）

妄想は進んでいく

（まあ……叶うわけないんだけど）

少女はこの時点で気づくことは無かった

その願いが

叶ってしまうことを……

「ただいま」

（誰も居ないけど……癖ってなかなか消えないよね）

そうしてリビングに近づいて行くと物音が聞こえる

（誰がいる！？）

恐る恐る部屋を覗いて見ると

一人の青年が座って新聞を読んでいた

（人の家に入って新聞を読むってどんな空き巣よ…）

少女がため息を吐く

それが青年の耳に届いたのか

「誰だ！」

(ッ——気づかれた!?)

青年は立ち上がって部屋の入り口に近づいてくる

そして

「キャアアア!!」

泉無は見つかって押し倒された

「静かにしろ。俺は空き巣じゃない」

その時泉無の目に映ってしまった

青年の顔が……

そして

「……ルルーシュ？」

「——ッ俺を知っているのか!？」

青年いやルルーシュは泉無を押し倒した腕にさらに力を入れた

「イタッ、痛いよ!!」

「お前……C・C. なのか？」

「ち、違うよ。私は……」

「ならここは何処だ?なぜ俺のことを知っている?」
矢継ぎ早に質問をしていくルルーシュ

そんなルルーシュの質問になんとか答えていく泉無

「そんな……この世界では俺はアニメのキャラクターの一人なのか?」

ようやく泉無を解放したルルーシュの第一声はそれだった

「う、うん」

「そうか……ククッあの魔女め……本当に異世界に送ってくれたんだな。」

何かがおかしいのか笑い始めたルルーシュ

「あの……ルルーシュ？で良いのかな」

「なんだ？」

「これから貴方はどうするの？」

何を思ったのか泉無はそんなことを聞いていた

「とりあえず衣食住を充実させれる場所を探すさ」

そう言って家から出て行こうとするルルーシュ

それを引き留めるかのように

「待って、ならこの家に住まない？」

「は？」

「だから、この家に住まない？ 行くところ無いんでしょ？」

「君はバカか？ 何処の世界にこんな怪しい男を一緒の家に住まないか？ 等という奴がいる」

「なっ……誰がバカですって！？ はただあなたが心配で……」

そんな言葉を遮るように

「だがありがたい申し入れた。だから受けたいんだが良いか？」

ルルーシュは笑顔でこちらを見てきた

「へ？」

「ん？ どうした。」

「いや、受けてくれるなんて思って無かったから…」

そう言いながら泉無は右手を差し出す

「私は如月 泉無」

ルルーシュも右手を差し出しながら

「ルルーシュ・ヴィ・ブリタニアだ。世話になるな、よろしく」

そうしてルルーシュは泉無と握手をした

——とりあえず、腹が減ったな。泉無何かあるか？

——順応早いねルルーシュ……もうすぐ晩御飯の時間なんだけど待てない？

——なら待とう。ああさっきは済まなかったな。押し倒して

——別に気にしてないよ。じゃあ私は着替えて来るから……それと部屋はお父さんの部屋を使って良いから。場所わかる？

——それっぽい場所ならな

(後書き)

一応この話の続きも考えています。

好評だったら続きを書こうと思っているので感想けると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0044v/>

とある魔王の逆トリ生活（仮）

2011年10月7日16時12分発行